

五-74

大東社

大東社談第二集

大關克
編輯

大東社

社談の原稿ハ怠らず寄送有らんことを要す本社主義に
適ひたる者なれば論説詩歌にハ限らず雑事と雖可なり

大東社談第貳集

○可明ニ白扶樹國體論

大關 克

生民ノ初ハ蓋蠢爾トシテ禽獸ト異ナルヲ無ク弱ノ肉ハ強
ノ食ニテシ人々堵ヲ安スルヲ能ハス争亂シテ已マズ是ニ
於テカ智力有ル者ニ就テ曲直ヲ斷シ遂ニ推テ首領ト爲ス
是レ君ヲ立テ長ヲ置テ政治ヲ爲スノ始メニシテ万国皆然
ラサルハ莫シ是レ國トシテ革命ナラサルハ無キ所以ナリ
歐人ノ言ニ曰ク熱帯ノ民ハ共和ニ發リ寒帯ノ民ハ立君ニ
發リ暖帯ノ民ハ一定セスト信ニ其言ノ如クシハ皇國ハ暖
帯中ニ在テ立君ニ發ル者ト云ンカ然リ而シテ皇國ハ立君
國ノ中ニ就テ特ニ比類無キ者トス蓋國トハ一區域ヲ成ス
ノ名ナリ體トハ一形質ヲ具フルノ稱ナリ區域形質ニナ天

神地祇ノ陰陽ニ因リ原濕田野水土ノ性陰陽風雨寒暑ノ候
彼此同シカラス一定シテ變ス可カラズ是ニ於テ君臣民事
物此ニ在ル者彼ト制チ異ニセサルハ無シ是レ立國ノ體各
國ノ宜キ所以ニシテ國體トハ國ノ有形ナリ抑國體ノ異同
アル所以ノ本ハ神祇ノ陰陽ニ出テ、其ツ大體農ト商トニ
分ル地球上海國多シト雖之チ草味ノ初ニ本ツクル時ハ皆
水草ヲ追ヒ鳥獸ノ肉ヲ食ヒ其血ヲ飲ミ其ノ毛ヲ着ルニ非
レハ草木ノ實ヲ茹ヒ其ノ葉ヲ着ルニ始マラサルハ莫シ故
ニ今ニ至テ通商ヲ以テ國益ノ最トスル者ハ猶當初水艸ヲ
追ヒ漁獵ヲ事トスルノ遺風展轉シテ猶存スルニ非スソハ
アラズ是其陰陽寒暑風雨ノ候原濕田野水土ノ性然ラサル
ヲ得スシテ然ルナリ抑皇國ハ天祖ノ詔敕ニ千五百秋瑞

穗國ト宣ヒテ土性膏沃ニ地味稼穡ニ宜クシテ百穀豐穰ナ
ルカ故ニ生民ノ最初ヨリ五穀ヲ常食トシ未曾テ鳥獸ノ肉
ヲ食ヒ其ノ血ヲ飲ミ其ノ毛ヲ着ルノ事アラズ農桑ハ天祖
コレヲ天上ニ事始メシ玉ヒ之レヲ以テ國本ト爲シ祭政ト
モニ農桑ノ爲ニアラサルハ無シ夫レ農ヲ務ル者ハ必地着
シテ徙ルコトヲ憚ル故ニ古ヨリ農民世々一郷ニ土着シテ肯
テ他ヲ懷ハサル者ハ農者ノ質然ラサルコトヲ得ス夫レ下々
ル者既ニ世襲土着ナリ之レカ上タル者獨リ時ニ變換ス可
ケンヤ是レ天祖ノ吾カ王統ヲ萬世不變ニ制定シ玉フ所以
ニシテ天ハ終古上ニ天タリ地ハ無疆下ニ地タルト同一理
ナリ彼ノ智力アル者ヲ推シテ君長トナセシ者ト其ノ差別
アルコト自ラ知ル可シ且國ヲ以テ之レヲ田宅ニ比喻セシ

吾カ國ハ田宅素ヨリ主人ノ有ニシテ從僕ハ主人ノ爲ニ備作スル者ナリ他ノ革命國共和國ハ噓ヘハ田宅ハ別ニ其眞主アリ君長タル者ハ假ニ之レテ支配スル者ナリ暫時人ノ爲ニ統理スル者ナリ之レヲ廢置スルハ眞主ノ權理在ルコト有リ縱令コノ國ニ君主トシテ千歳世襲スルモ竟ニハ之レヲ其人ニ還サ、ル可カラサルノ時アリ皇國ハ國土人民開闢以來一姓ノ有ニシテ決シテ人ノ窺覩スルコトヲ許サズ時ニ詔シテ天下ハ天下ノ天下ト宣フ所以ハ天下ハ天祖ノ天下ニシテ天位ハ天祖ノ天位ナルヲ以テ之レヲ有チ之レニ居ルハ天祖ノ意ニ在テ目下之レヲ有チ之レニ居ル者一人ノ得テ私シス可カラサルノ意ヲ示シ玉フ者ニシテ異域ノ人ノ言フ所ト言ハ同クシテ意ハ大ニ異ナリ國體ノ尊嚴ナ

ルヲ知ラサル者乃コノ詔命ニ據テ吾カ國體ヲ他ニ同ト比視シテ天下ヲ共有ニセシト欲ス是レ其ノ心タル何ソ其レ悖逆ナルヤ又地券ヲ以テ言ヲ爲ス者有リ然レモ今ソ地券ハ昔ノ沽券ナリ人民ノ賣買ニ便利ヲ与フルニ止マリテ決シテ之ヲ以テ天下ヲ共有スルノ證ト爲ス可カラス然ルニ今ソ輕躁浮薄ニシテ無學無識ナルヲ徒彼我ノ同異ヲ知ラズ動輒國體上ニ隊ヲ容ル、ハ是レ從僕ニシテ主人ノ田宅ヲ橫議スルナリ子ニシテ父ヲ左右スルナリ之レヲ謂テ亂臣賊子ト爲スモ決シテ誣言ニシテ非サルナリ天下ノ本ハ國ニ在リ國ノ本ハ家ニ在リ家ノ本ハ身ニ在リ形ニ大小有リテ治方同シカラスト雖其ノ理ハ乃一ナリ身ニ神魂ノ主有リ耳目鼻口四肢百骸其ノ命ニ從ハサラシト欲スト雖得可

カラス況其ノ耳目鼻口四肢百骸ニシテ神魂ノ權ヲ制セン
 ト欲スルニ於テチヤ然ラハ家國ノ主天下ノ君獨下ヨリ之
 レチ左右スルヲ得サルヤ明シ然ルニ今ノ民權說ニ陷溺
 シテ復ルヲ知ラサル者徒ニ人事ノ末チノニ逐テ天理ノ
 本ニ原ツカス小ニ明ニシテ大ニ闇ク新奇ノ說ヲ喜テマタ
 古チ稽ヘス隣人ノ家法ヲ羨テ己レカ父祖ヲ蔑視スル者滔
 々トシテ皆是ナリ太甚キニ至テハ吾カ皇祖ヲ謂テ朝鮮人
 種ニシテ來テ斯國ヲ略有セシ者トスルニ至ル是レ其ノ說
 タルヤ猶吾カ父ハ犬豕豺狼ナリ吾カ母ノ前夫ヲ逐ヒ吾カ
 母ト私シテ斯ノ田宅ヲ有シ吾レチ生メルナリト謂フカ如
 シ嗚呼狂悖ニシテ且羞恥ノ心無キ一ニ何ソ此ニ至レルヤ
 是チ人タル所以ノ心無シト謂フ然リト雖是レ邪說ノ人心

チ害スルナリ是レ吾カ赫々タル國體ノ更ニ之レチ明白ニ
 シ之レチ扶樹セサル可カラサル所以ナリ謹テ接スルニ天
 祖ノ詔命ヲ以テ皇孫ヲ斯ノ國ニ下降セシメ玉フニ當テ百
 事皆天上ニ事始メ天上ノ儀ノ如クセヨト命シ玉ヒテ之レ
 チ降シ玉ヘリ是レ皇國ハ君種臣種天上ニ於テ分別シ既ニ
 分別シテ後ニ降リタル者ナレハ實ニ異域ノ人ヲ以テ相合
 テ君臣トナレルトハ天人ノ差異アリ畜ニ君臣ノ分ノミニ
 非ス万物ノ制亦ミナ天祖ノ面前ニ定リテ後ニ降レル者ナ
 リ是故ニ吾カ君臣民事物ハ天神ノ明制ナリ人智人力ヲ以
 テ其ノ定體ヲ變スルヲ得可キニ非ス然レモ衆口ハ金ヲ
 鑠シ人多クシテ天ニ勝ツ是レ吾カ黨ノ畏レテ豫防ノ策ヲ
 講セサル可カラサル所以ナリ蓋天地有テ然ル后ニ夫婦有

リ夫婦有テ然后ニ父子有リ父子有テ然后ニ君臣有リ君臣有テ然后ニ禮義措ク所有リ是故ニ人倫ニ於テ君臣ノ義ヨリ大ナルハ莫シ何ニトナレハ君臣ノ倫立タサレハ禮義起ラス禮義起ラサレハ夫婦アリト雖父子有リト雖天理民彝由テ行ハル、所無ケレハナリ夫レ吾カ皇國ハ天祖天神ノ神猷ヲ以テ不變ノ明制ヲ立テ玉ヒ天上ニ於テ早ク君種臣種ヲ分別シテ下降セシノ玉ヒシニ由テ一統連綿ノ盛運万世不變ノ鴻業益隆ニ益榮ニ玉ヒ名分今ニ至テ彌明ニ大義天地ト共ニ更ラサル者ハ蓋變ス可カラサルノ道體ヲ君臣一綱ノ上ニ確立シテ三綱五常ヲシテ無窮ニ紊レサラシメ此ノ大倫ヲ一定不易ナラシメテ十倫十義ヲ億年ニ明ニ行ハレシメントナリ是ヲ以テ万國ノ宗國ノ稱アリ蓋邦人ノ

誇詡自尊ニ非ス且夫レ海外ニ在テモ近今世襲ノ制ヲ是トスルノ論アリ又土耳其ハ千餘年來能ク一系相繼テ君タリト然テハ世襲ノ制ハ獨吾カ國ニノミ可ナルニ非ス歐州諸國ト雖可ナルノ理アルナリ是レニ由テ益信スラク皇國ノ國體ハ天地位ヲ易、日月明ヲ更ムルノ時アルニ非レハ斷々乎トシテ動かズ變ラズ倫理ノ明カナル道義ノ正キ實ニ万國ノ師表タルヲ然リト雖是レ天祖天神ノ心ヲ以テ特ニ然テシテ玉フナリ豈其ノ然ル所以ヲ知テ其ノ理ヲ明カニシ其ノ義ヲ講ヒサル可ケンヤタゞ海外諸國ノミナ革命撰立ノ君ナルハ亦各々立國ノ體ノ宜キニシテ然ル可カラサルノ勢ナリ是亦天ナリ人ニ非ス故ニ今ニ在テ彼ニ於テハ我カ無窮世襲君主國ニ倣フヲ得可カラサルハ固ナリ

然ルニ渠ノ人心無キノ徒ハ他ノ倣ハント欲シテ得可カラ
サル吾カ國體ヲ珍重シテ保護ヲ加ヘ尊崇シテ維持ヲ勤メ
萬國ヲシテ欽仰セシム可キノ道ヲ思ハサルノミナラス往
々竊ニ彼ニ易ヘント欲スル大逆無道ノ説ヲ爲ス者アリト
嗚呼人心ノ亂一ニ何ソ此ニ極レルヤ夫レ人ノ身軀ハ大小
短長美醜黑白各々生レ得テ變換スヘカラス是レ體ト稱ス
ル所以ナリ咄々渠ノ徒ハ則其己レカ體ヲ變換シ得ラル可
キ者ト以爲ヘルカ何ソ國體ヲ變換セント欲スルノ狂悖惑
亂極レルヤ傳ニ曰ク温故知新通達國體ト尊王愛國ノ士宜
ク古ヲ稽ヘ今ヲ照シ吾カ國體ハ天祖ノ神制ニシテ實ニ宇
内ニ無比ナルヲ審カニシ又萬國國體ノ然ラサルヲ得
サルヲ知リ吾カ國ノ憲法ハ必欽定ナラサル可カラスシテ

國會ハ必ス朝命ニ出テサル可カラサル所以ノ故ヲ詳明ニ
シ邪説ヲ拒キ正道ヲ衛ルヲ以テ各々自任シ渠ノ狂悖惑亂
ノ徒ヲ化シ永世ニ亂臣賊子無カラシメンコトヲ期シ民權ノ
勢ヲシテ上ヲ犯スニ至ラサシメンコトヲ務メサル可カラ
ス嗚呼今日吾カ黨ノ急務ハ其レ此ニ在ルカ其レ此ニ在ル
カ

○我カ大八洲ノ志士ニ告ク 菊池起

嗚呼時變ノ支フ可カラサル天耶命耶將タ勢耶今腕ヲ奮ヒ
皆ヲ裂キ疾聲大呼シテ衆ト謀リ之ヲ支ント欲スルモ天ト
命トハ我レ其ノ之ヲ如何トモスルコト能ハサルヲ知ル若シ
夫レ勢ハ然ク此ニ至レル者ナランニハ我レ必ス排攘挽回
シ得可キヲ知ル豈徒ニ痛憤泣血シテ荏苒時日ヲ經過ス可

ケンヤ今我カ大八洲ノ志士近時宇内ノ形勢ヲ諦觀セヨ常
 ナリトスルカ變ナリトスルカ愚夫愚婦ト雖モ誰カ其ノ變
 タルヲ知ラサランヤ然リ而シテ其ノ變タルヲ以テ却テ之
 ナ好機會トナシ我レヨリ進テ彼レノ來ルヲ邀ル者アリ其
 ノ風潮浸潤ノ致ス所玩具ヨリ衣服衣服ヨリ家屋家屋ヨリ
 政教甲モ其利ヲ賞シ乙モ其巧ヲ贊ソ僅々十餘年ノ間ニ一
 事一物彼レニ倣ハサル無キヲ之レ恐ル其ノ事物ヲ變スル
 ノ極又何ヲカ變ゼントスル之ヲ好機會トシ欽慕感戴スル
 者ハ固ヨリ論ナシ始ハ之ヲ厭忌排攘セシ者モ亦一事ニ馴
 レ一物ヲ玩ビ知ラズ識ラズ其風潮中ニ寢食スルモノ都鄙
 既ニ半ヲ過キタリ是ノ時ニ於ニ變ノ極タル最モ恐ル可キ
 ノ一物アリ何ツヤ曰ク其物タルヤ寸分無形ニシテ二千五

百有餘年連綿セル君仁臣忠父子相繼ク所ノ日本魂ヲ變ゼ
 ントスルナリ説テ此ニ至レバ泣ント欲シテ聲ヲ吞ミ血涙
 漣々雙眼爲ニ瞑ムノミ吁嗟我カ大八洲ノ志士ヨ之ヲ天ナ
 リ命ナリトシテ支テ可カラザルノ變トスルカ苟モ風潮浸
 潤勢ノ此ニ至ルヲ知ラハ志士ヨ彼ノ水火ヲ觀ヨ水能火ヲ
 滅スニ非ズヤ火能水ヲ涸ラスニ非ズヤ其ノ然ル所以ノ
 者ハ他ナシ多ノ少ニ勝ツノミ又彼ノ金石ヲ觀ヨ金能石
 ナ碎クニ非ズヤ石能金ヲ礪クニ非ズヤ其然ル所以ノ者
 ハ他無シ制スルト制セラルトニ在リテ多少ニ在ラザル
 ナリ今我カ大東社員僅々一百餘名ヲ以テ天下風潮ノ勢ニ
 對シ進テ爲ス事アラント欲ス其多少ニ於テ水火孰レニ比
 スルヤ勢ノ然ラシムル誰カ其好結果ヲ見ルヲ保セン然

リト雖モ苟モ彼ニ制セラレザルノ一決アラバ一人ヲ以テ
 モ爲スト能ハズト謂フ可カラズ况ヤ既ニ一百餘名ノ團結
 アルニ於テヤ且各々之ヲ子弟ニ及ボシ郷黨ニ單キ遂ニ
 天下ニ擴充セバ三千五百餘萬ノ日本魂ヲ完全ナラシメン
 ト何ノ難キヲカ之レ有ラン我レ聞ク玉ハ涅ニスレモ縊マ
 ズト又聞ク玉ハ碎クレモ其ノ明ヲ失ハズト嗚呼今日風潮
 ノ浸々タルニ際シ豈碌々腐朽スルノ秋ナランヤ同胞ノ情
 誼黙々ニ附スル能ハズ身ノ不肖ヲ忘レテ疾聲大呼シ以テ
 我ガ大八洲ノ志士ニ告グ

○出三乎爾者反三乎爾

茨城 鈴木貫作

茲ニ人有リ市ニ往テ松魚ノ色澤美ナルヲ見ル目喜テ以爲
 ヘラク是レ必新鮮ナラント垂涎ニ堪ヘズ購ヒ得テ家ニ歸

リ將ニ調理セントス忽臭氣ノ鼻ヲ撲ツニ遭ツ愕然トシ一
 驚ヲ吃シ自悔テ以爲ラク是レ目ニノミ任シテ鼻ヲ疎ンセ
 シノ過チナリ是ノ腐敗物ヲ奈何セント然レモ嗜欲禁スル
 ト能ハズシテ之レヲ食ヒ終ニ其毒ノ爲ニ弊サレタリト鳥
 呼此ノ人ヤ目ノ過チヲ改テ鼻ノ告知スル所ニ從ハシメハ
 非命ニハ死モザル可シ是モ亦愚者ノ常態アリ夫レ目ハ人
 身中ニ在テ最大要物タリト雖耳ト口鼻トノ之レガ左右ト
 ナリ羽翼トナリテ時ニ之ヲ匡直スル無クンバ目ノ爲ニ身
 チ害モザル者少シ此人ノ如キ乃是ナリ余輩是レニ依テ吾
 ガ國勢ニ感ズル所アリ吾ガ極聖文武ナル明治 天皇陛下
 ガ維新ノ初ニ於テ天地神明ニ對シ五條ノ誓文ヲ立テサセ
 ラレシヨリ以來洋癩ノ浮腫者流ハ之レヲ口實トシテ荐リ

ニ民權ヲ主張シ國會ヲ請願スルノ徒年二月ニ蠢動シ甚キニ至テハ誓文ヲ誤解セシヤ抑故意ナリヤ革命共和ノ風ニ倣ハソフ欲スル者アリ此ノ時ニ當テ廟堂ニ立タル、大臣諸公ハ如何ナル意見ヲ有セラレシヤ余輩ノ親ヒ知ルヲ能ハヤル所ナリト雖國會開設ノ請願書ヲ一切受理セラレサルニ據テ之レヲ察スレハ既ニ目ニ見テ鼻ニ嗅キ國會ノ臭氣ノ吾カ固有ノ國體ニ害物タルヲ熟知セラレテ其ノ請願ヲ受理セラレサリシナル可シ然ルニ吾カ人民ハ政府ノ處置ヲ以テ不是トナシ猶國會開設ニ戀々タルハ何ソ彼ノ腐敗物タルヲ知テ之レヲ食ヒシ者ニ似タルノ甚キヤ亦愚ニ非サレハ狂ノミ皆シ此ノ愚ニ非レハ狂ナル者ヲ招集シテ國會議員タラシメハ堂々タル日本帝國ハ一朝ニ顛覆

セシモ測ル可カラス豈塞心セサル可クンヤ余輩此ノ如ク論シ來テハ民權論者ハ必嘲罵シテ曰ハソ汝モ亦卑屈極レリ當路諸氏ノ外他ニ其ノ人無シト思フヤ是レ井蛙ノ見ナリト余輩ハ之レノ斥シテ自負我慢ノ人ト謂ハソノニ縱令草莽ニ其ノ人アルモ余ハ決シテ社稷ニ益アリ國體ニ利ナルノ人トハ思ハサルナリ如何トナレハ其ノ人果シテ社稷國體ニ利益アラハ何ソ朝ヲ去テ野ニ在ルヤ况吾カ天皇陛下ノ聰明ナル之レヲ任用シ玉ハサルノ謂アラソヤ乃彼ノ輩ハ政論ノ同異ヲ以テ口實ト爲ス可シト雖余輩ハ決シテ之レヲ信セザルナリ必ヤ社稷國體ニ利益無キ説ヲ爲ス者ナルニ由テ朝ニ立ツヲ得サル者ト信スルナリ且ヤ彼ノ民權者流ハ黃口書生輩カ雷同附和スルニ過キス其ノ與

論ト曰ヒ公論ト曰フモ三四ノ新聞雜誌ニ教唆セラレテ喃々呶々タルノミ三千五百万ノ人民中吾カ心ヨリ出テ、國會ヲ請願スル者ハ蓋万分ノ一ナルヲ得サルヤ必セリ万分ノ一ナルヲ得サル僅々ノ人ノ言フ所ヲ以テ輿論公論トスルハ噫誣罔モ亦太甚シカラヌヤ且彼ノ有志惣代ト稱シテ各地方ヨリ上京セシ書生輩ハ其ノ意ノ在ル所名ヲ擧テ官ヲ求ムルニ在リ近ク証ヲ示サンニ吾カ縣下有志惣代ノ一人ナリシ野手某、頃日某官ト爲リシヨリ頓ニ國會論ハ口ニ絶テリト(此ノ類他縣ニモ在リ珍シカラズ新聞上ニテモ知ル可シ)是レヲ推テ之レヲ觀レハ其ノ他ハ知ル可キノミ故ニ皇國ノ人民タル者此ノ輩ニ誘惑セラレヌ此ノ無病ナル國家ヲシテ暴疾ヲ發セシメ以テ彼ノ腐敗物ヲ知テ之

レヲ食テ自斃ル、カ如キ山平爾而反平爾、災ヲ釀メテ無ラノコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ然リト雖彼ノ民權論ヲ教唆者ハ不平等ニアラヌハアラヌ噫

○ 畝火山

故

賴惟柔 杏坪

花

昔た、みいやまきし敷島の長き根さしをわふけ國人言さやくから國人に見せはやな日本にのみ咲さくらはな評 昔人雖業儒者其志在此而不在彼也如此今之學者豈傾向乎彼而心不在此者吾不知所以命之也噫 異端と云ふ事を 浮ひいてん事かたけれの過ちて異なる道にな入りろの淵

陳志

故

岡

熊

臣

天皇乃御爲止奈良婆蛙如身衰碎氏毛道爾死辨志
父母波歎坐止毛縱惠八師身波大王乃邊爾古曾死奈米
事之有波身波露霜乃消去止毛踏也志多賀武諸越之原
天皇之命令爾志有婆韓國乃鳴綠江爾永漬止毛縱

誠忠大義

藤田忠五郎

いた矢申負て死すとも天皇の御楯となれや益荒男のとも

陳志

師岡正胤

國の死なんと思ふこゝろ神比賜へるたからなりけれ
此頃鄭成功の眞蹟なる一幅を見しに流石は儒服を
焚棄し軍馬に從事し百折不撓萬曆の正朔を奉じた
るの氣象を數百年後の今日迄も墨痕上に發揚する

が如く世に珍らしき物なれば其詩句を左に録す

禮樂衣冠第文章孔孟家南山開壽域東海釀流霞

答人

染谷愛次郎

得生神國是神孫夷教是非々所論何管世人譽與毀仰高一系

一王尊

詠史

小野湖山

懷柔說本出優柔一日謀安千載憂夷虜東西何樂驚使人設懷
弘安秋

附雜事

○近傍委員下田義天類氏は都合に由り任地引纏め郷里なる豆州伊東和田村へ歸省されたるに付近傍委員を辭する由申越されたり

○吉岡徳明氏は沼名前神社の宮司を大關克は神道事務局の編輯擔任を辭して共に忠愛社員と爲れり

○第一輯發行の時本社員人名録を添たるが若し配達の漏れたるあらは御通報ありたし早速送致す可し

○社談の代價郵便税ども前金にて送附ありたし但割引は致さそ利益金を配達方雇料その外紙筆并お月に兩度の會費等お充て有餘おれば積金となす可ければなり

○人名録七ノ丸鈴村ハ鈴木ノ誤

明治十四年十月廿六日出版御届

定價金四錢

編輯兼出版人

東京府士族

大關克

東京小石川區小石川久堅町百廿二番地

取次所

太教新報社
東京京橋區宗十郎町
五番地

274

國富子國公學民廿六日出期餘誠

公館

取

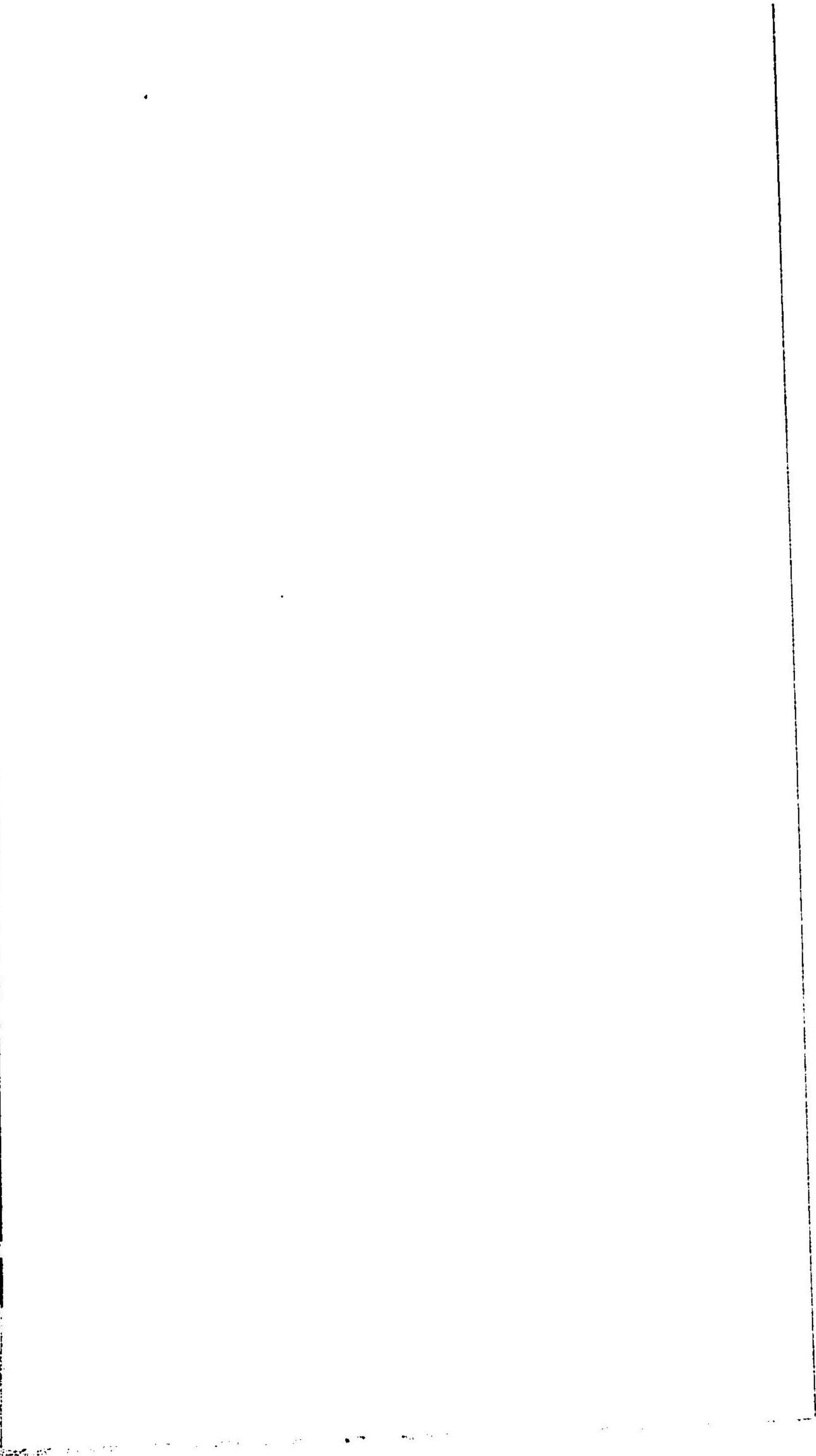
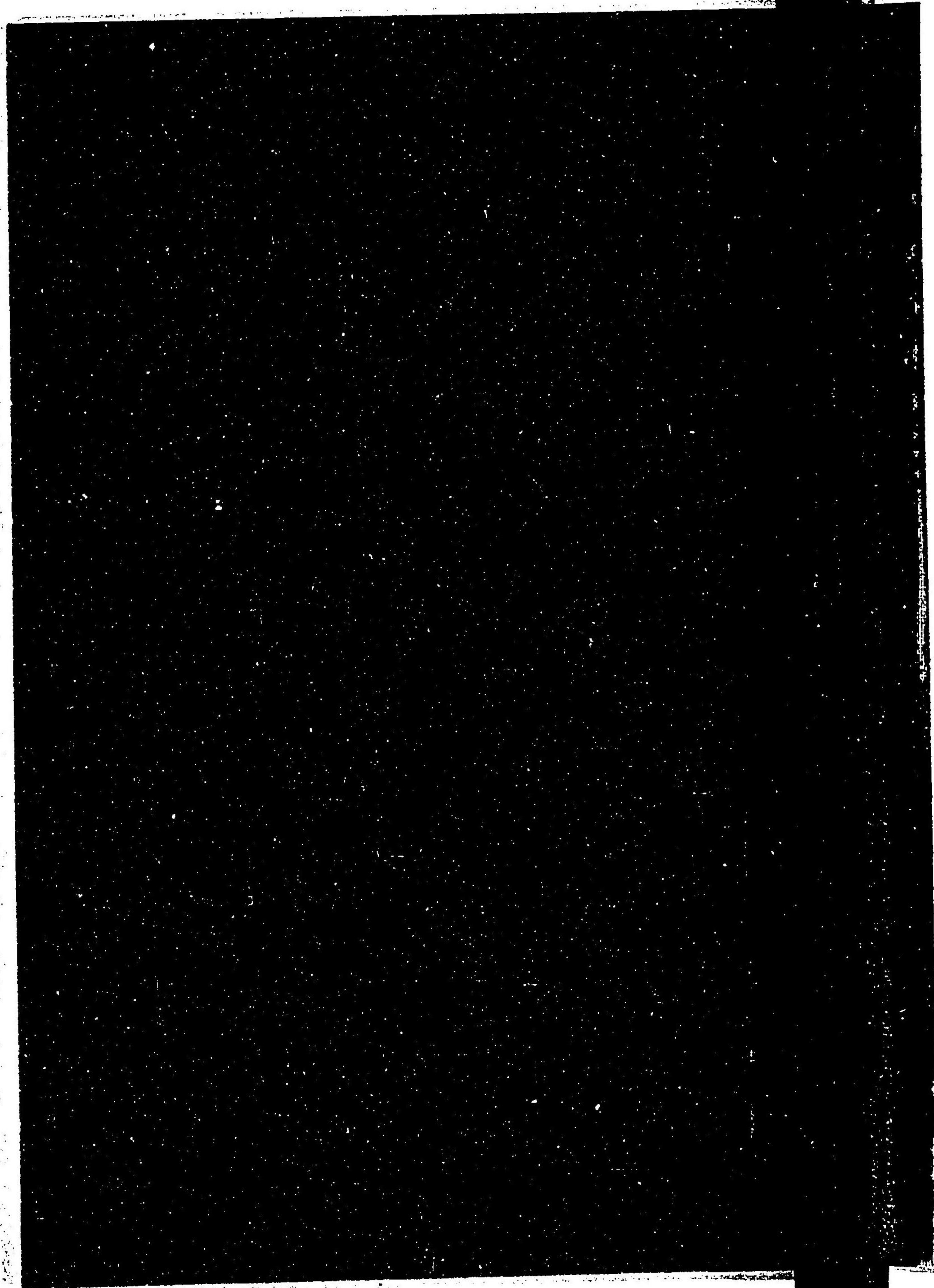
出

法

六

公

十



大東社談 第2集

大関 克

国立国会図書館

014363-000-2

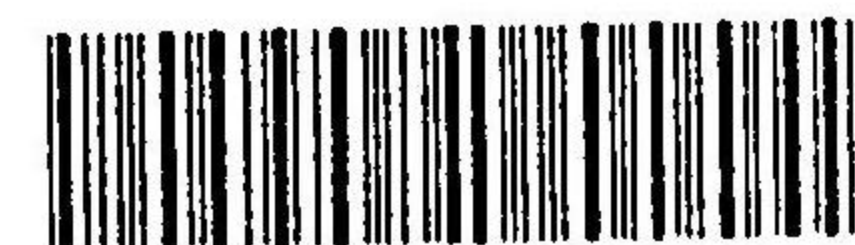
特52-304

大東社談 第2集

大関 克/編

M14

ABB-0715



特

3

